

スポーツ学部 スポーツ学科 カリキュラムツリー(2026年度以降入学生)

●通常の科目 ○教職関連科目

教育課程編成・実施の方針 (CP)
 スポーツ学科は、大学の教育課程編成・実施の方針 (CP) に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専攻教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。
 教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。

【教育内容】
 1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目、専門教育科目、自由選択科目を配置し、アスリートマネジメントコース、スポーツ教育コース、スポーツトレーナーコース、スポーツ政策コースの4コースで構成し、スポーツに関する専門的知識、技能を身に付けるよう、系統的に科目を配置する。
 2. 専門教育科目は、「学部共通科目」「学科共通科目」「専攻コース科目」「ゼミナール科目」「スポーツ実技科目」で区分し、基礎的内容から応用・発展的内容まで、知識と技能を修得し、さらに両者を実践的に学修できるよう科目を配置する。スポーツに関わる理論知・実践知を身に付け、学年を重ねるにつれてそれらに応用する能力を高められるよう、必修科目と選択科目を段階的に配置する。
 3. さらにゼミナール科目は、2年次より少数クラスで展開し、4年次に卒業研究に取り組む科目として配置する。これらの科目を通して、国内外において活かせる「協調性」、「社会性」、「リーダーシップ」、「コミュニケーション能力」、「礼節とマナー」、「指導者能力」、「課題探求能力」、「課題解決能力」を育む。

【教育方法】
 1. 主体的な学びの力を高めるためにアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。
 2. 演習・実験・実習においてはグループ学習を取り入れ、協調性を身に付けるとともに、自己および他者の課題を発見し、解決する能力を育成する。
 3. 卒業研究は、身に付けた知識・技能・論理的思考力・分析力を活用し、主体的に研究を行い、成果が実を結ぶように個別指導を実施する。

【教育評価】
 1. 各授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。
 2. 4年間の学修成果は、卒業研究 (必修) によって行い、総合的に評価する。

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合共通科目	教養教育科目「現代国家と法 (日本国憲法)」など 言語・異文化理解科目「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」など 情報教育科目「データサイエンス入門」「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」など キャリア教育科目「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」など キャリア教育科目「キャリア基礎演習Ⅰ」「キャリア基礎演習Ⅱ」「キャリア基礎演習Ⅲ」							
学部共通科目	○解剖生理学 ○スポーツ運動学(運動方法学を含む) ●スポーツ指導論 ●北九州市の教育課題 ●スポーツ生理学 ●スポーツバイオメカニクス ●スポーツ社会学 ●スポーツ心理学 ●安全・健康管理 ●スポーツ栄養学 ●体力トレーニング論 ●レクリエーション論							
学科共通科目	○衛生学及び公衆衛生学 ●体力測定評価法実習 ●トレーニング実習 ●テーピング実習 ●健康フィットネス論 ●救急処置 ●救急対応実習 ●アダプテッドスポーツ概論 ●アダプテッドスポーツ指導法 ●スポーツ統計学 ●スポーツ動作解析法 ●発達発達老化論 ●アダプテッドスポーツ演習 ●パラスポーツ活動実習 ●スポーツクラブのマネジメント ●スポーツの歴史と文化							
アスリートマネジメントコース	○アスリートマネジメント概論 ●コーチング各論A ●トレーニング計画論 ●レジスタンストレーニング実習 ●コーチング各論B ●コーチングシステム論 ●メンタルトレーニング演習 ●スポーツワークショップ ●コーチング実習 ●スポーツコミュニケーション論 ●スポーツパフォーマンス測定実習 ●地域スポーツ論 ●スポーツゲーム分析演習 ●スポーツ観戦論 ●スポーツ栄養マネジメント演習 ●アスリート栄養実習							
専攻コース科目	保健体育教育に関する科目	●スポーツ教育概論 ●社会体育論 ○学校体育のマネジメント ●学校体育指導演習 ○精神保健 ○学校保健Ⅰ(学校安全を含む) ●ジュニアスポーツ論 ●ジュニアスポーツ指導演習 ○学校保健Ⅱ(小児保健を含む) ●学校保健指導演習						
	養護教育に関する科目	○養護概説 ○看護学Ⅰ ○看護学Ⅱ ○看護学実習Ⅰ ○健康相談活動 ○栄養学(食品学を含む) ○臨床実習Ⅰ ○臨床実習Ⅱ						
	特別支援教育に関する科目	○障害者教育総論Ⅰ ○障害者教育総論Ⅱ ○知的障害者の心理・生理・病理 ○肢体不自由者の心理・生理・病理 ○病弱者の心理・生理・病理 ○知的障害者教育 ○肢体不自由者教育 ○病弱者教育 ○知的障害者指導法 ○肢体不自由者指導法 ○障害者の病理・保健 ○発達障害教育総論 ○視覚障害教育総論 ○聴覚障害教育総論 ○重複障害教育総論						
スポーツトレーナーコース	●アスレティックトレーナー概論 ●機能解剖Ⅰ ●スポーツ外傷・障害論Ⅰ ●コンディショニングⅠ ●検査・測定と評価 ●機能解剖Ⅱ ●スポーツ外傷・障害論Ⅱ ●コンディショニングⅡ ●スポーツ外傷・障害の予防 ●アスレティックトレーニング現場実習Ⅰ ●アスレティックトレーニング現場実習Ⅱ ●コンディショニングⅢ ●リコンディショニングⅢ ●スポーツ内科学 ●アスレティックトレーニング現場実習Ⅲ ●アスレティックトレーニング現場実習Ⅳ ●アスレティックトレーニング現場実習Ⅴ ●アスレティックトレーニング現場実習Ⅵ							
スポーツ政策コース	●スポーツ政策概論 ●スポーツ政策各論 ●スポーツ組織論 ●生涯スポーツ論 ●地域スポーツ政策演習 ●生涯学習と社会体育 ●生涯スポーツと社会体育の指導者 ●生涯スポーツと社会体育の経営 ●生涯学習支援方法論 ●ボランティア活動と生涯スポーツ ●スポーツ社会教育実習 ●スポーツ社会教育演習 ●地域スポーツ指導実習							
ゼミナール科目	●ゼミナールⅠ ●ゼミナールⅡ ●ゼミナールⅢ ●ゼミナールⅣ ●キャリア発展ゼミナール							
スポーツ実技科目	○体操(体づくり運動を含む) ○陸上競技A ○バスケットボール ○サッカー ○器械運動 ○陸上競技B ○水泳 ○バレーボール ○バドミントン ○ダンス ○剣道 ○柔道 ●エアロビクスダンス ●健康づくり運動実技 ●アクアエクササイズ ○ソフトボール・野球 ○テニス ●レクリエーション実技							
自由選択科目	教職課程関連科目、K-CIP関連科目、他学部・他学科等の履修科目							
自由科目	教職に関する専門教育科目							

卒業認定・学位授与の方針 (DP)
 スポーツ学科は、総合的な教養、スポーツ分野での多様な専門知識を身に付け、幅広い教養かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを旨とする。この基本理念のもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。

【知識・技能】
 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身に付け、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系的基礎を理解し、専門知識と技能を身に付けている。

【思考力・判断力・表現力】
 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身に付けている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身に付け、地域社会の中で率先して行動できる力を身に付けている。

【主体性・協働性・倫理性】
 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身に付けている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身に付けている。